

目標

- ・ 着ぐるみを着て、来場者を楽しませる。
- ・ 会場の雰囲気盛り上げる。
- ・ 自分たちも楽しむ。

着ぐるみ紹介



スギッチ
杉の木の妖精 秋田杉がモチーフ
2007年に誕生して今年で引退

ゆりべこちゃん
秋田由利牛の「ゆり」と牛を意味する方言の「べご」、愛らしいメスなので「ちゃん」を組み合わせて作られました。



にかほっぺん
おいしいものが大好きなペンギン。
おいしいものを食べるとほっぺが
落っこちちゃう☆

仕事内容・注意点

- ・ 体調管理(熱中症、脱水症状など)
- ・ 着ぐるみのイメージを壊さない(おしゃべり不可)
- ・ 子どもたちの夢を壊さない

まとめ

着ぐるみは視界が狭いけれど、新たな視点は私たちに様々なことを気づかせてくれた。いざ当日になって、計画の段階では気づけなかったことに対して、グループの皆で協力して乗り越え、目標を達成していった。また、初めての感覚にもすぐに適応し、効率よく仕事を行えた。その過程で自ら助けを請い、自ら助けに行き、自ら仕事を行うことで自主性も身についた。グループの1人としての自覚を持ち、お互いに協力し合うというチームワークの大切さを学べた。

そして、お客さんではない視点で参加したことで、菜の花祭りについてもいくつか気づくことがあった。例えば、お祭りが活気に満ちていたことに喜びを覚えた。ごみが意外と少なく、道が清潔に保たれていたなどである。また、市民の1人として参加することで由利本荘市について知れたのは良かったと思う。最後に、おそらくその場にいた全ての人にはあの雄大な自然に感動していたと思う。

鳥海高原の今後について考える機会を与えられた。私たちはまず、あの自然を守るべく、菜の花祭りをより良くしていかなければならない。もっと知名度をあげて、皆に知ってもらう必要もある。無料のシャトルバスなどで足を運びやすくする必要もある。私たちが考え、悩んだことが実行に移されれば鳥海高原はより良くなっていくだろう。

活動を通して

周囲からの反応

菜の花祭り当日は、たくさんの方から声をかけていただいたが、周囲からの反応は年代によって違いがあった。

子どもたちはタックルしてきたり、中に誰かいるのではないかと覗き込んできたりと、興味津々な子がいる一方で、大きなゆるキャラにびっくりして泣き出してしまいう子もいた。10代や20代の方は同じポーズをしたり、手を繋いだりして一緒に記念写真を撮る人が多く見られた。年配の方からは、晴天だったこともあり中の人を気遣う言葉を多くいただいた。



着ぐるみで大変だったこと

着ぐるみを着ていると視界がかなり狭くなり、足元がとても見えづらくなるので、近寄ってきた子どもたちに気づかないこともあり大変だった。また、着ぐるみはとても歩きづらく、補助なしでは自分がどこを歩いているのか分からなくなり危険だった。

中は風通しが悪いので蒸し暑く、30分ほどで交代してしまっただが、それでもかなりきついと思った。着ぐるみの中でなにか問題があっても声を出してはいけなないので、補助の人がこまめに声がけをしなくてはいけなく、入っていないときも気を抜けなかった。

感想

着ぐるみなんて小さな子供にしか興味を持ってくれないと思っていたが、自分達と同じ大学生の人やお年寄りの方などに多くの方々に話しかけてもらったり、写真を撮ってもらったり握手求められたりと色々なアクションを求められたことで、とても有意義な時間を過ごすことができた。また、着ぐるみの補助を行うときも、周囲に気をつけながら、相手と接し、そして中の人々の体調も気にしなければならなかったりと臨機応変に動くことの難しさと色々な人と触れ合うことの楽しさ、大切さを学ぶことができた。